



町内会短信 12月号

師走 2021年12月1日
川沿中央第一町内会長
柴田田鶴子

北海道札幌南区のここ川沿の地は、11月末となっても未だ晩秋の趣があった枯れ葉色の風景も師走を迎える一週間前には、人々に冬を迎える覚悟を促すかのような湿気を含んだ大量の雪が降り積もり、瞬く間に辺り一面の銀世界となりました。ガソリン、灯油の高騰に始まり、出費がかさむお正月を1カ月後に控え、食料品や消耗品等ものみな値上がりの気配を見せています。コロナ禍の不況に追い打ちをかけるような先行きの不安を抱えたまま令和3年は終わろうとしています。

11月7日久し振りの全役員会の折、担当役員より赤い羽根共同募金の班内回覧実施報告があり、コロナ禍の不況にも拘わらず、当町内会割り当て分の半分以上の寄付が集まった旨の報告がありました。勿論募金はあくまで善意の寄付であり決して強制ではありません。

私の懇意にしている一人暮らしの高齢者の方が「私ね、赤い羽根募金で封筒に500円玉か1,000円札かどちらにしようか迷うとき、老人の私が1食分の500円や1,000円を我慢してお茶漬けにしたところで飢え死にはしないでしょ。でも私の寄付した500円か1,000円が誰かのもっと切実な飢えを助けたらって思うと心がポッと暖かくなってやっぱり多い金額寄付しちゃうのよね」そしてほほ笑みながら「不思議よね、心が満たされたら御馳走食べた後よりも幸せな気分なのよね」そう言って彼女は柔らかくほほ笑むのでした。

先日99歳で亡くなられた作家で僧侶の瀬戸内寂聴さんによると、それは「人が生まれてくるのは自分だけの幸せを追い求めるためではありません。無数の縁によって生かされていることを感謝し、一人でも多くの人を幸せにすることこそ生きる目的です(天台宗の忘己利他(もうじつ)という教え)」「何ものも自分のものではない。若さも名誉も金も家族もいつかは失われてしまう儚いものである。そう自覚することで執着という煩惱から放たれることが出来る」と。

我々俗人はとても、51歳で出家、99歳迄生き切った寂聴さんには及びもつきませんが、その御説には共感する方が多々いらっしゃると思います。コロナ感染者数は少なくなりつつありますが、変異株の出現で先行きは見通せません。しかし、感染者の少ない今をねらって1月16日(日)にソーシャル・ディスタンスに十分注意して2年振りに町内会新年会を、地区センター大ホールを借り切って開催することに致しました。時間は短く、飲食はお持ち帰りの運試しゲームが主です。詳細は1月に配布予定です。お楽しみにお待ちください。但し、感染者急増の場合は即中止と致しますのでご承知おきください。

11月の町内会行事実施報告	
11月3日(水)	どんぐり公園清掃日 9:30~10:30 Dグループ(16,17,18,19,20班)
11月7日(日)	町内会役員会 10:30~ 於 地区センター2階
11月17日(水)	どんぐり公園清掃日 9:30~10:30 Eグループ(21,22,23,24,28,29班)
11月27日(土)	子どもXマス会 2回に分けて実施 12:50,13:50~ (保護者含めて計45名参加)
敬神講関係	
11月26日(金)	新年行事についての責任委員打ち合わせ会 於藻岩神社 柴田委員出席
12月の町内会行事予定	
1月16日(日)	町内会新年会 午後1時~ 於地区センター大ホール

裏面へ

郷土史より (視野を広げて) —クラーク博士の志 (終)

郷土歴史家 吉田邦行



北海道大学のクラーク博士像は、50年後の大正15年に教え子たちが呼びかけ建立したものである。戦時中、金属供出命令によって一時失われたが、昭和23年有志者によってクラーク博士像は再建された。その後、北海道観光ブームによって北海道大学のシンボルとしてなくてはならない存在となっている。羊ヶ丘展望台のクラーク博士像は、石狩平野を遥かに見渡せる丘に、1976年に建立された。像の台座には「大志の誓」のポストがある。志のある方、夢のある方、実現に向けて誓いを立てたい方は、是非どうぞ。夢と希望を叶えるためにも…。

クラーク博士が4月16日に去って、7月に二期生18名が入学する。二期生の宮部金吾は自叙伝で、「先生は殆んど完全な理想に近い教育者として差支えないであろうと思う」と、語っていることからすでにクラーク博士は、偶像化されている。

同じく二期生の内村鑑三(クリスチャン・宗教家)も、クラーク博士を明治18年に訪ねている。その印象は「彼は宗教的というより、軍人氣質(元北軍大佐で従軍)であった」と述べている。

クラーク博士は帰国した翌々年、マサチューセッツ農科大学学長を辞任している。その後は不連続きで、明治19年3月9日亡くなっている。はっきりしていないが、大好きな酒によるものと見られている。酔って帰宅途中、誤って側溝へ転落したとも伝えられている。

◆ **丘の上のクラーク博士像(羊ヶ丘展望台)** 北海道大学開学100年を記念して建立されたブロンズ像。酪農の基本である草原を背景に札幌農学校の方向を指差している。(作:板垣 道)

◆ **クラーク博士宿舎跡** 開拓使本陣と呼ばれる木造平屋の建物で赴任後8ヶ月間居住した。居住跡地 中央区南1条東1丁目。バスセンタービル1号棟 敷地内

◆ **札幌独立キリスト教会** 札幌農学校二期生である内村鑑三・宮部金吾・新渡戸稲造らによって、明治14年10月に創設された教会。中央区南2条西6丁目から移転、現在は中央区大通西22丁目にある。

◆ 「はくし」と「はかせ」の違いについて i) 「はくし」は ① 学術上優れた研究業績をあげた人に授与。② 今は、大学院の博士課程を終了し、博士論文の審査および試験に合格した人。 ii) 「はかせ」は ① 学門・学識のある人。② 一つの道によく通じた人。③ はくしの俗称。④ ものしり。例えば鉄道、昆虫、恐竜はかせ。

クラーク博士は、西ドイツのゲッチンゲン大学で博士の学位を取得しているので「はくし」が正しい名称。(終わり)